

歓声と笑顔がいっぱいの小学生英会話教室!

今年も「夏休み小学生英会話教室」が7月23日(月)から27日(金)の5日間、南流山センター・中央公民館(文化会館)・森の図書館・初石公民館・東部公民館の5か所で開催されました。



キャサリン先生

外国人の先生方とふれあいながら、コミュニケーションを楽しみ、英語に親しんでもらうことを目的としたこの教室。各小学校から集まった3・4年生の合計300名が、10名ずつの教室に分かれ、外国人講師との英語活動に臨みました。

指導にあたるのは、小学校英語活動スーパーバイザーのキャサリン先生・リチャード先生・エイミリ先生の3名。

真剣な表情で先生方を見つめ、内容をしっかり聞き取りようとする子どもたちも、その後の活動やゲームでは大きな歓声や笑い声を上げ、心の底からこの教室を楽しんでいるようでした。終了後は外国人講師と握手やハイタッチをしたり、サインをもらったり、どの子も嬉しそうなお返事で教室を後にしていきました。

リチャード先生



エイミリ先生

このような経験を積むことで、子どもたちが少しでも英語を楽しめ、5年生からはじまる外国語活動の授業に積極的に取り組んでくれればと思います。

芸術鑑賞会

文化庁が支援する芸術鑑賞会が10月23日南流山小学校体育館で開催されました。指揮者の工藤俊幸さんを含め、山形交響楽団の団員50余名が本物のオーケストラの魅力を伝えました。

開会のセレモニーも和やかな歓迎の中で始まり、演奏の1曲目は耳に馴染みのあるウィリアムテル序曲から「スイス軍の行進」が響き渡ると、小学生は一瞬のうちに演奏会の聴衆になりました。弦楽器・木管、金管楽器・打楽器が特徴的な音と共に紹介されていきました。ハーブを奏でた際のうっとりとした子どもたちの表情や、肌に直接飛んでくるような大太鼓の振動が生演奏の力を存分に示していました。ラデツキー行進曲では低学年の子どもたちが腕を上げて体全体で演奏を楽しんでいる姿が見られました。終盤、オーケストラをバックに校歌を含め2曲を全員で歌いました。



★情操教育推進事業について

観劇、音楽鑑賞、ミュージカル等を通し、心身共に多感な時期の児童・生徒の情操を養い、豊かな心情を培うことを目的として、流山市では情操教育事業を推進しています。

児童・生徒は本物の文化や芸術に触れ、とても充実した時間を過ごすことができ、多くのことを考える機会となりました。今年度実施(予定)した学校は次の通りです。

- 東部中・・・ソプラニスタによる学校芸術鑑賞会
- 西初石小・・・金管楽器によるアンサンブル
- 常盤松中・・・パンジョー演奏鑑賞、宇宙体験の講演会
- 向小金小・・・観劇「風の童子」
- 流山小・・・ミュージカル「セロ弾きのゴーシュ」
- 南部中・・・合唱団による音楽鑑賞会



オランダのアムステルダム市との“絵画交流”

流山市内などを流れる利根運河の設計に携わったムルデル技師がオランダ出身であることから、本市では交流事業を展開しています。この交流事業の一つとして、昨年度、市内の小学4～6年生と中学生を対象にオランダの小学校に贈る絵画を募集した所、58点の応募があり、選考を経て20点がオランダ大使館を通じて海を渡りました。

そして今年度、オランダのアムステルダム市の小学生が描いた絵画22点の贈呈式が、9月12日に流山市立西初石小学校で行われました。参加した同校5年生約100人は絵画を見たり、絵を届けていただいたオランダ大使館職員に文化の違いについて質問するなどして国際交流を深めました。



教育トピックス

教育ながれやま

第55号
編集発行 流山市教育委員会
TEL 04(7158)1111

いじめ防止に心から願うこと



流山市教育委員会教育長 後田 博美

いじめに関する報道が後を絶ちません。現在、いじめは大きな社会問題ともなっており、悲しいことに事態が深刻化し、自殺にまで追い込んでしまったケースも聞かれます。

他の問題と大きく異なるのは、実情がなかなか見えてこないことがあげられます。それは、誰かに知らせればさらにひどい仕打ちを受けるかもしれないことや、実は、それまで仲の良かった間でおこることもあり、本人自らがなかなか状況を打ち明けにくいことも事態が深刻化する背景となっています。

そして結果として、人の目の届かないところで継続してしまうのです。子どもたちに有意義な学校生活を送らせるためには、全ての力を結集して臨まなければなりません。いじめは、子どもたちの間で発生することが多くありますが、この解決には、学校はもとより、大人も、子どもたちもしっかり協力して解決にあたる必要があります。誰もが気づかない状態こそ問題だと思えます。

しかし、勇気を出してなかなか言えないこともあり、外からは見えにくく、継続して苦しむ状況となってしまうがちです。だからこそ、周囲や内側、またはその周りからの情報が必要となります。

9月はじめに、流山市の小中学校では、いじめの実態調査を行いました。その結果、「いままでにいじめにあったことがある」と答えた子どもたちは、予想はされたものの、かなり多くの件数の報告を受けました。

市教育委員会では、このアンケートを

もとに、各学校の状況の聞き取り調査を行い、その後の対策や追跡調査などを定期的に実施し、この負の連鎖を断ち切るために取り組んでいます。

10月には、東葛飾地方中学校駅伝競走大会、市内音楽発表会、11月には市内小学校ミニバスケットボール大会が開催され、多くの児童・生徒の活躍の場が見られました。一本の棒に託し次に繋ぐ思いや、心をついに音を紡いでいく姿、1個のボールを追いかける姿からは、いじめは無縁のもののようにさえ思われました。いじめはないほうがよいことは誰もが願うところですが、いじめはいつでもどこでも起こりうることを忘れず対応していく必要があります。

いじめばかりではありませんが、人間は「ないこと。」や「ないであろう。」という考えで物事を見た時は、そのこと自体が視界から消えるとも言われています。子どもたちを取り巻く全ての人々が力を合わせて取り組むことが、解決への最大の手立てとなります。学校は、地域社会の一部であるように、社会の影響を大きく受けます。大人が真剣に取り組む姿が、解決への重要な第一歩だと思えます。

そして、子どもたちには、周囲の友だちにこういう行為を感じた時は、他の大人に知らせる勇気をもってほしいと願っています。

いじめは人間として絶対に許されるものではありません。まずは、相談から始めましょう。そして、早急に解決の糸口を見いだしていきたいものです。

通学路の安全点検を実施しました

学校教育課

児童の登下校中の安全確保をするため、7月12日～31日、保護者・学校・道路管理者・流山警察署・学校教育課による全小学校の通学路の安全点検を実施しました。

合同点検は、本年4月以降、登下校中の児童等の列に自動車飛び込むという痛ましい事故が相次いだことを受け、文部科学省、国土交通省及び警察庁の3省庁が作成した「通学路における緊急合同点検等実施要領」に則り実施したものです。点検は、小学校単位で危険箇所62箇所を延べ86人で実施し、点検後、警察、道路管理者から技術的な助言を得て、78の対策案を作成しました。今後、関係機関等で対策案に基づいて計画的に対策を講じます。



お知らせ

教育広報「教育ながれやま」55号からの自治会回覧はなくなりました。今後、市内公共施設の窓口配置します。

ひと声かけよう! 「おはよう、ありがとう、すみません」のとびかう ながれやま